

## 「みんなで作ろう 能登のわ」

### 1 趣 旨

不登校傾向にある中学生が、自分と対話する創作活動や他者と関わる体験活動の中で、互いに影響を与えながら、根気強く取り組むことをとおして自立心やコミュニケーション能力を育成する。

### 2 ねらい

- (1) 様々な体験活動とおして、自己の得意な面や苦手な面をみつめ直し、自己に対する肯定的な見方を高める。
- (2) 仲間と一緒に体験活動をすることで、いっしょに活動することの楽しさや達成する喜びを味わい、友達と関わろうとする意識を高める。

### 3 日 程

- (1) 期 日 1回目 平成26年 7月10日(木)  
2回目 平成26年 7月17日(木)  
3回目 平成26年12月17日(水)

- (2) 参加者 1回目：4名，2回目：3名，3回目：6名，合計13名  
(※いずれも七尾市教育研究所「わかたけ」に通室している生徒)

- (3) 研修内容

#### 【7月10日】

10:00	10:30	12:00	13:00	15:00	15:30
入所式	アーチェリー	昼食	てん刻	感想発表	

#### 【7月17日】

10:00	12:00	13:00	15:00	15:30
手びねり(大社焼)	昼食	いかだ体験	アンケート	

#### 【12月17日】

10:00	12:00	13:00	15:00	15:30
クリアキャンドル	昼食	バドミントン・クイズ	アンケート	



アーチェリー



いかだ体験



クリアキャンドル

## 4 成果と課題

### (1) 事前・事後アンケート結果

参加した生徒に IKR 評定用紙を用いて、事前・事後の調査を行ったところ、12月は有意差が見られた。その結果、「全体」及び「心理的社会的能力」の項目において顕著な向上が見られた。

能力	人数	事前調査		事後調査		t値	有意確率 (両側)
		M	SD	M	SD		
全体	6	120.0	25.7	125.5	25.9	4.198	0.009 **
心理的社会的能力	6	60.3	12.2	63.0	12.0	3.024	0.029 *
徳育的能力	6	34.8	7.3	36.3	5.9	1.695	0.151
身体的能力	6	24.8	6.7	26.2	8.5	1.397	0.221

\*\*P<.01 \*P<.05

### (2) 参加者の満足度結果から

アンケートによる事業の満足度は、7月も12月も100%であった。全て日帰りの日程となったが、7月は2日間の日程にしたため、体験活動に費やす時間を確保できた。また、余裕のあるスケジュールの中で仲間とじっくりとふれ合えたことが満足感につながったと思われる。

### (3) 生徒の感想

- ・ はじめは的に当たらなかったけど、だんだん当たるようになってうれしかった。いかだは、乗る前、落ちないか心配だったけど、乗ってみたらとても楽しかった。
- ・ いかだをこぐのがとても楽しかったし、アーチェリーも楽しかったです。
- ・ クリアキャンドルが楽しかったです。説明が分かりやすく、あまり迷わずに作ることができました。バドミントンも楽しかったです。

### (4) 成果と課題

#### 《成果》

- ・ 不登校の生徒を対象に、日常生活から離れた中で野外活動と創作活動の機会を提供できたことは大きな成果である。
- ・ 生徒達は、活動の中で小さな成功体験を重ねた。その積み重ねが自信につながったものと思われる。
- ・ 創作活動は、創造性を育むことはもちろん、制作の過程で行われる自己との対話によって精神の安定を図ることができる。
- ・ 12月の活動において、不参加の予定だった生徒が参加できたことは、交流の家での活動が生徒の興味を刺激したからであると推察される。
- ・ 国立能登青少年交流の家の担当職員も、活動に加わることで、事業をとおして対象生徒と交流をもつことができた。お互いに良好な人間関係を築けたことは、他者とのコミュニケーションを苦手とする児童生徒にとってはよい経験になり、自信を深める結果となった。
- ・ 事業終了後のアンケート評価も高く、今後も継続して取り組みたい。

#### 《課題》

- ・ 1泊2日の宿泊体験活動を提案したが、生徒の実態を考慮した結果、日帰りの活動となった。次年度は、寝食を共にする活動の中で得られる自他に関する気づきを今後の学びに生かしてほしい。
- ・ IKRに自己肯定意識尺度を加えてアンケート調査をしたが、有意な差は見られなかった。今後は、生徒の変容をとらえる評価方法についてさらに検討していきたい。